

福井県立大学からのお知らせ

令和8年2月6日

報道機関各位

ようやく名前がついた！

日本各地で観察されてきた珪藻を新種として記載

研究成果のポイント：ラムサール条約湿地に登録されている中池見湿地（福井県敦賀市）などから採集した珪藻について詳細な調査を行い、新種として正式に発表しました。この珪藻はこれまでも日本中で見つかっていながら、他の似た種と混同されており、実体が正しく知られていませんでした。水環境の指標生物である珪藻の新種発見は、環境調査の上でも基礎的な知見となります。この成果は日本藻類学会が発行する学術雑誌「Phycological Research」に掲載されました。本研究は筆頭著者が本学大学院在籍中に開始したもので、共著者のうち2名も福井県立大学に所属しております。

研究の背景と成果：珪藻は、淡水から海水まであらゆる水環境に生育する単細胞の藻類で、水圏の生態系における一次生産者として重要な地位を占めています。珪藻の最大の特徴は、細胞がガラス質の殻におおわれている点です。珪藻の種によってその殻の形はさまざまに異なっています。

本研究では、新種の珪藻 *Epithemia fragarioides* (エピテミア・フラガリオイデス) を記載し、本種が特に多く出現する福井県敦賀市の中池見湿地をタイプ産地*1として指定しました。本種はこれまで長い間、日本各地の河川や池、湿地で観察されていながら、類似の別種と混同され、バラバラの名前で報告されてきました。我々は正体が曖昧なままだったこの珪藻を中池見湿地および奈良県の池や温泉から採集し、さらに過去に滋賀県などから得られた類似の珪藻試料についても改めて精査し直しました。その結果、顕微鏡による殻形態の観察や遺伝子配列の調査によって、この珪藻がいずれの既知の種とも異なる新種であることを示しました。なお、種名の「フラガリオイデス」は、電子顕微鏡で観察した際に殻の表面が「イチゴ (Fragaria)」の表面に似た独特な凹凸をもつことにちなんでいます。

本研究の成果は、見過ごされていた珪藻の多様性の理解に貢献するものです。また、珪藻は環境の指標生物としても利用されるため、本種の発見は中池見湿地をはじめ様々な水辺環境をモニタリングするための基礎的な知見となります。

用語解説

* 1 タイプ産地

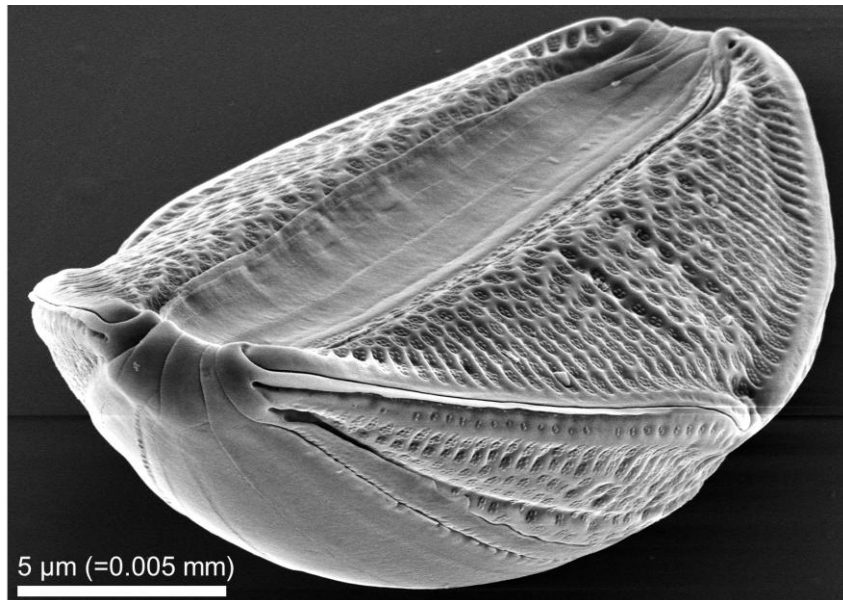
新種を正式に発表する際、その種の世界的な基準となる標本が採集された場所のこと。



福井県立大学
Fukui Prefectural University

FPU Press Release

福井県立大学からのお知らせ



新種 *Epithemia fragarioides* の電子顕微鏡写真

謝辞：本研究は、奈良女子大学 大和・紀伊半島学研究所共同研究費の支援を受けました。

掲載論文

【題 名】 *Epithemia fragarioides* sp. nov. (Bacillariophyta): Formal recognition of a diatom widespread across Japan

(日本各地に広く分布する珪藻の新種 *Epithemia fragarioides* の正式な記載)

【著者名】 鎌倉史帆 (奈良女子大), 中地智里 (福井県立大), 大塚泰介 (琵琶湖博物館), 南雲保 (越後自然誌研究所), 佐藤晋也 (福井県立大)

【掲載誌】 Phycological Research, DOI: <https://doi.org/10.1111/pre.70020> (2026 年 1 月 29 日出版)

【問い合わせ先】

福井県立大学 海洋生物資源学部海洋生物資源学科
〒917-0003 福井県小浜市学園町 1-1
佐藤晋也
TEL: 0770-52-6300 FAX: 0770-52-6003
E-mail: ssato@g.fpu.ac.jp



福井県立大学
Fukui Prefectural University